



# 上山小学校「風のたより」

令和5年7月19日(水) 校長 有谷孝彦



学校経営目標：ふるさとを愛し、

自らの未来を切り拓く児童を育成する



## 明日は終業式！

トンボといえば、やはり秋の昆虫というイメージですが、校庭にはシオカラトンボなど多くのトンボが飛んでいます。異常気象のせいでしょうか、昆虫も自分の出番を迷っているようです。(\*^^\*)

さて、つい先日1学期の始業式、入学式を迎えたばかりという感覚なのですが、・・・やっぱり思ったとおり「あっ」という間の1学期間でした。一日一日を大切に噛みしめながら過ごすよう心掛けていたのですが、素敵な時間ほど早く経過するのだと実感しています。



子どもたちは、運動会をはじめとする学校の諸行事等で大きく成長しました。特に、6年生は最高学年としての自覚が芽生え、言動に大きな変化がみられました。認められる、委ねられるとそれに応えようと懸命に努力していました。すべての子どもにいえることですが、学習に臨む姿勢もずいぶん変わってきました。先生の話に集中し、黒板を凝視する子どもたちの様子は、まさに「情やま笑」「上やま昇」「常やま勝」です。1学期という節目を気持ちよく迎えられそうです。

## 1学期に苦しかったこと

上記した内容に嘘はありませんが、私が感じたこと、いや私たちが感じたことを2点お話しさせていただきます。

「本気で子どもを大切にしてください」この言葉は、時事通信社「内外教育」の6月30日号に記載された見出しです。この見出しで、書かれている内容は、国は「こども家庭庁」を立ち上げ、「こどもまんなか社会」の実現に向け努力していますが、日本の子どもたちは、社会の片隅に追いやられがちであるということです。例を挙げるならば、今年4月末には長野市で、子どもの声がうるさい

という苦情がきっかけで公園が廃止されたといひます。また、子育て支援で保育所は増えましたが、新しく増えた保育所の多くは、園庭のない「ビルだけ保育所」だといひます。さらに加えるならば、小学校の学級定員は40人から35人に移行しつつありますが、先進国の多くは1クラス20人程度ないしそれ以下であります。「豊かな人格形成」「学力向上」などを目指し、全人教育を進めたくても、社会が追い付いていないと思えてなりません。なかなか届きませんが、かわいい子どもたちのために小さな声を大きな変革にできないかと強く思っています。

もう1点は、やや辛口ですが「自分の子どもを理解していますか?」ということだす。価値観の違ふ社会でありますので、「標準の育ちをしている子どもの姿」を具体的にお示しすることはできませんが、組織(社会)の中で活動していくためには、「思いやりの心」「素直な心」「嘘をつかない」「人に迷惑をかけない」「物を大切にする」など不易の道徳心や公共心などを、大人として、愛情をもって、そして毅然と指導すべきであると考えます。学校職員も保護者も地域の皆様もすでにお分りのことを話しておりますが、そうでない場面がこの1学期に散見されました。私たちの子育ての中心は、「子ども理解」だす。長期休業中にたくさんお話をされて、子どもの特徴と将来のことについて語り合ってみてはいかがだすか?



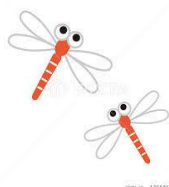
あいしてる

谷川俊太郎

あいしてるって どういうかんじ?  
ならんですわって うっとりみつめ  
あくびもくしゃみも すてきにみえて  
ぺろっとなめたく なっちゃんかんじ

あいしてるって どういうかんじ?  
みせびらかして やりたいけれど  
だれにもさわって ほしくなくって  
どこかへしまって おきたいかんじ

あいしてるって どういうかんじ?  
いちばんだいじな ぷらちもあげて  
つきにだいじな きつてもあげて  
おまけにまんがも つきたいかんじ



☆上山小のHP「スミレだより」毎日更新しています。QRコードもご利用ください。